

<改訂に向けた基本的な考え方>

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ②多様性の包摂
- ③実現可能性の確保

自らの人生を舵取りする力（興味・関心）
民主的で持続可能な社会の創り手

個人と社会の
ウェルビーイングの実現



- ①「なぜ（Why）」体育・保健体育科を教えるのか？
- ②「何を（What）」何を教える教科なのか？
- ③「誰が（Who）」指導する教員の多様性
- ④「いつ（When）」体系的視点から見た至適期
- ⑤「どこで（Where）」教科、教育課程内、外
- ⑥「どのように（How）」指導方法、デジタル教材等

体育科(運動領域)・保健体育科(体育分野)の内容検討経過から見た成果と課題

平成20年 健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会

「全ての子どもに身につけさせたいミニマムとは?」

①身体能力、②態度、③知識、思考力・判断力として整理

平成20,21年 学習指導要領改訂

- ・ 専門部会答申を受けて、校種のゴールイメージと指導内容の検討
- ・ 12年間の体系化(校種の接続、系統性(縦)と領域(横)のつながりを整理
- ・ 内容の明確化(評価規準の参考としての例示を示す)

平成23,24年 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

平成25年 学習指導要領実施状況調査

- ・ 体ほぐし運動の目的の理解、動きの理解(小)、武道・ダンス、器械運動(中)

平成29-31年 学習指導要領改訂

- ・ 評価の観点の変更(教科の共通性→資質・能力育成)
- ・ 思考力、判断力、表現力等、 学びに向かう力、人間性等の例示
- ・ 態度(共生の指導内容等の充実)と資質・能力育成のバランス重視

令和2年 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

令和4年 学習指導要領実施状況調査

- ・ 態度指導の充実、体ほぐし運動の目的理解

体育科(運動領域)・保健体育科(体育分野)の内容検討経過から見た成果と課題

平成20年 健康な体力を育む教育の在り方に関する専門部会

体育で育成すべき内容とゴールイメージの共有

平成20・21年 学習指導要領改訂

12年間の体系化(4・4・4)による校種の接続

- ・内容の明確化(評価規準の参考としての例示を示す)

1
2

知識・技能、思考・判断・表現、態度の評価規準

- ・体はぐし運動の目的の理解、動きの理解(小)、武進・タノム、奮慨運動(中)

知識の構造化(概念、具体、方法)

- ・思考力、判断力、表現力等、子供に向かう力、人間性等の例示

3
4

指導の重点化(カリマネ)、資質・能力の育成方法と評価

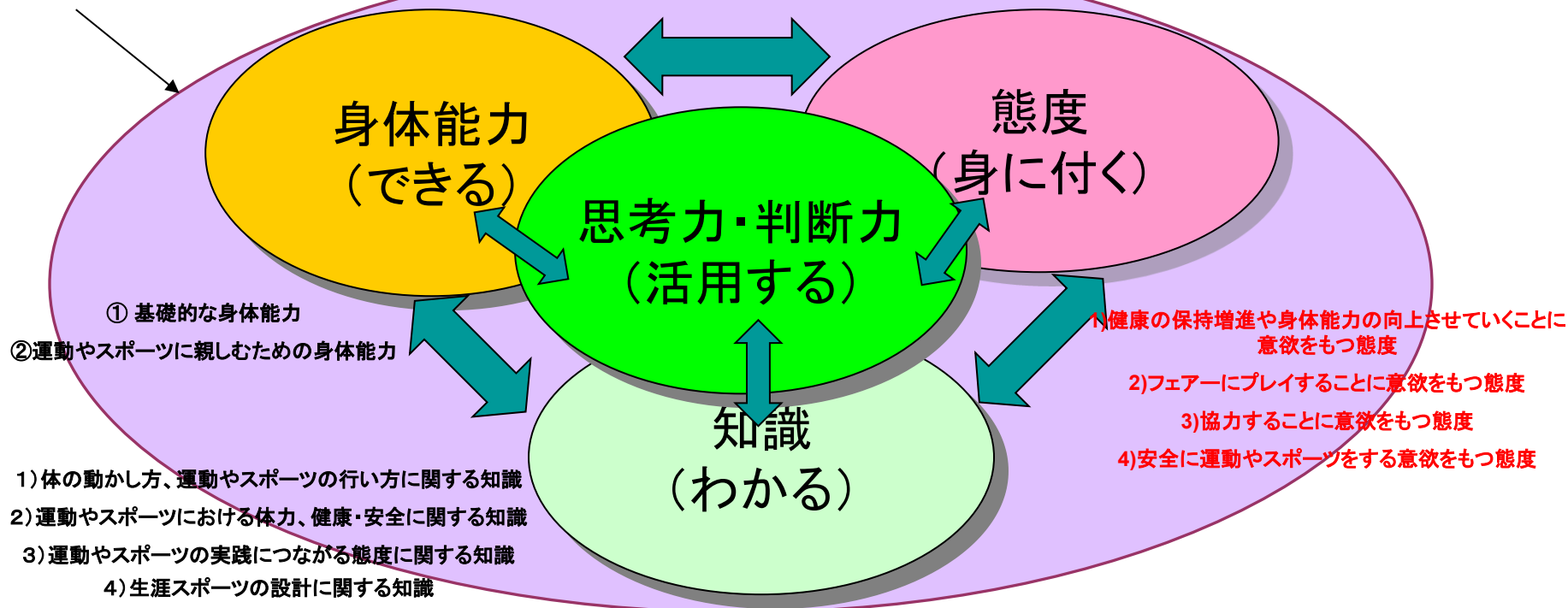
- ・態度指導の充実、体はぐし運動の目的理解

「身体能力」、「態度」、「知識、思考・判断」の関係図

イメージ図①

生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続
～生涯にわたって運動やスポーツに親しむために～

合理的・意欲的な運動実践(経験)



「身体能力」の例示＝ミニマム

イメージ図②

① 基礎的な身体能力

1) 短時間に集中的に力を発揮する身体能力

- ・全力で加速した後、最高スピードを維持することができる。
- ・全身を使って、その場で高くあるいは遠くへ跳ぶことができる。
- ・自分と同じくらいの重さの人を、押したり、引いたりすることができる。

2) 持続的に力を発揮する身体能力

- ・一定のペースを維持して、走り続けることができる。
- ・自分と同じくらいの重さの人を、背負って歩き続けることができる。

3) 柔軟性を発揮する身体能力

- ・膝を伸ばしたまま、両手で足首に触れることができる。
- ・壁を背にして立ち、体を捻って真後ろの壁に両手で着くことができる。

4) 巧みに身体を動かす身体能力

- ・なわを跳んだり、輪を転がしたりするなど、用具を様々な操作することができる。
- ・狭い場所や不安定なものの上で、歩いたりバランスをとったりすることができる。
- ・器械・器具で、体を支えたり回ったりすることができる。
- ・水の中で、浮いたり進んだりすることができる。
- ・リズムをとって、身体を動かすことができる。
- ・大きさの異なるボールを、手や足、用具を使って、投げる、蹴る、打つ、捕るなど、さまざまに操作することができる。
- ・危険やけがを回避できるよう、転がったり人をおかわしたりすることができる。

① 基礎的な身体能力

1)～4)に例示した動きのすべてを、一度は身に付ける。

動きのまとめ

個人的な運動で自分の身体や用具を操作する

個人的又は集団的な運動で演技したり表現したりする

ゲームで身体やボールを操作する

対人的な運動で対する相手の動きを制する

② 運動やスポーツに親しむための身体能力

1) 個人的な運動で自分の身体や用具を操作する身体能力

- ・速い脚の回転(ピッチ)と歩幅(ストライド)を維持して、短い距離を走ることができる。
- ・助走のスピードを生かしたり、腕の振り込みを使って、跳ぶことができる。
- ・手首のスナップ、上体の反り、体重移動、助走の勢いを使って、投げるができる。
- ・体の上下動を小さくして、長い距離を走ることができる。
- ・推進力を得るように、水を腕の動きでキャッチしたり、脚でキックしたりして、息継ぎをして泳ぐことができる。

2) 個人的又は集団的な運動で演技したり表現したりする身体能力

- ・体を回転させる、手や腕で体を支える、支持して跳ぶ、体のバランスをとる技によって、演技することができる。
- ・個人や集団で、音楽などのリズムに合わせて、テーマに合わせて創り出した動きで表現することができる。

3) ゲームで身体やボールを操作する身体能力

- ・ゴールに体に向けてボールをシュートしたり、ねらった場所にパスをしたり、シュートやパスにつながるドリブルで進んだりして、身体やボールを操作することができる。
- ・相手コートに体に向けてボールをスパイク(スマッシュ)したり、ボールのコースや落下点に入ってレシーブ(打ち返し)したりして、身体やボールを操作することができる。
- ・飛んでくるボールに合わせて打ち返したり体に向けてキャッチしたり、ねらった場所にボールを投げたりして、身体やボールを操作することができる。

4) 対人的な運動で対する相手の動きを制する身体能力

- ・相手のバランスを崩して倒したり(倒されないように防いだり)、相手の動きを制限したり(制限されないようにかわしたり)して、組んだ相手の動きを制することができる。
- ・振りかぶって対する相手の打突部位を打ったり、かわして打ったりして、対する相手の動きを制することができる。
- ・相手を押したり投げたりして、組んだ相手の動きを制することができる。

② 運動やスポーツに親しむための身体能力

1)～4)に例示した動きのうち、少なくとも3つの動きを身に付ける。

「態度」の例示＝ミニマム

イメージ図③

態度

1) 健康の保持増進や身体能力を向上させていくことに意欲をもつ態度

- ・健康や体力を保持増進するために、運動やスポーツに進んで取り組もうとする。
- ・技能上達を目指して動きを追求したり、知識を身に付けたりすることに進んで取り組もうとする。

2) フェアにプレイすることに意欲をもつ態度

- ・ゲームに伴う勝敗の結果を受け入れようとする。
- ・共に運動やスポーツを行う仲間を尊重し合おうとする。
- ・運動やスポーツで、独自の楽しさ、平等性、安全を保障するためのルールを守ろうとする。

3) 協力することに意欲をもつ態度

- ・準備や片付けで、分担されたことを果たそうとする。
- ・円滑に練習や試合を行うための約束を守ろうとする。
- ・活動場面では、お互いに助けたり、助言したりしようとする。

4) 安全に運動やスポーツをすることに意欲をもつ態度

- ・運動するときの順番、安全に対する決まり、自分の体調に配慮するための約束を守ろうとする。
- ・用具、器具を点検し、安全を確保しようとする。

1)～4)に例示した態度のすべてを身に付ける。

① 知識

1) 体の動かし方、運動やスポーツの行い方に関する知識

A 動き方、動きの構造やコツ等

動きの構造、動き方

B 運動やスポーツの行い方

技術・作戦・戦術、運動やスポーツの上達過程、技能上達の方法

C 用具やルール

用具等の名称、ルールの用語と意味

2) 運動やスポーツにおける体力、健康・安全に関する知識

D 発育・発達、体力の分類や高める意義、その高め方

体力の分類、体力向上の意義、健康・体力への寄与、
運動やスポーツが「身体と心に与える影響」、体力の高め方、個人差

E 運動やスポーツにおけるけが、疾病、障害、安全

けが、疾病、障害の種類、用具・施設の使い方、自然環境とのかかわり方、
安全な活動の仕方、対処法

3) 運動やスポーツの実践につながる態度に関する知識

F フェアプレイ

フェアプレイの意義、ルール・マナーの意義

G 活動場面

協力することの意義、チャレンジの意義

H 自主的な活動、課題解決学習の方法(◆思考・判断の方法の知識)

運動観察の方法、課題解決の方法、意思決定の方法

4) 生涯スポーツの設計に関する知識

I 運動やスポーツの意味やかかわり方

運動やスポーツの楽しさ、ライフステージに応じた楽しみ方、
運動やスポーツの継続、運動やスポーツへのかかわり方、生涯スポーツの振興

J 運動やスポーツについての考え方や発展の歴史

スポーツの歴史、オリンピックムーブメント、アンチドーピング

A～Jに例示した知識をすべて身に付ける。

知識の活用

運動・スポーツの実
践に活かす体の動かし方、運動や
スポーツの行い方に関
する知識の活用運動やスポーツの体力、
健康・安全に関する知
識の活用運動やスポーツの実践
につながる態度に関す
る知識の活用生涯スポーツの設
計に活かす生涯スポーツの設計に
関する知識の活用

② 思考・判断

1) 体の動かし方、運動やスポーツの行い方に関する思考・判断

- A 運動場面で運動の行い方の改善すべきポイントを見つけることができる。
- B チームの状況に応じて、作戦を立てたり、戦術を選んだりすることができる。
- C 記述や会話に、用具の名称やルールの用語を適切に利用することができる。

2) 運動やスポーツにおける体力、健康・安全に関する思考・判断

- D 運動する目的や体力に応じて運動の強度や頻度を選択することができる。
- D 体と心の状況に気付いたり、体と心の調子を整えたり、仲間と交流をしたりするため手軽な運動を選ぶことができる。
- E 用具を安全に使用するなどけがを防止するために必要な行動を選択することができる。
- E 熱中症などの危険を回避するために必要な行動を選択することができる。

3) 運動やスポーツの実践につながる態度に関する思考・判断

- F ゲームや練習におけるフェアなプレイについて指摘することができる。
- G 仲間と協力する場面で、役割に応じた協力の仕方を見つけることができる。
- H 個人やチームの課題に応じて、適切な練習を選ぶことができる。
- H チームの意思決定の際には、合意のための適切な方法を選ぶことができる。

4) 生涯スポーツの設計に関する思考・判断

- I 運動に関する様々な知識をもとに、生涯を通じた運動やスポーツとの自分に適したかかわり方を見つけることができる。

1)～4)に例示した思考・判断のうち、それぞれ少なくとも1つの思考・判断を身に付ける。

P36 (2)思考力・判断力・表現力等の表記

各段階で示した「思考力、判断力、表現力等」の主な表記

	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
学習指導要領	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えること	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えること	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること
体の動かし方や行い方	・課題や出来映えを伝える	・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントと理由を伝える	・動きを分析して良い点や修正点を指摘する
	・自己の課題に応じて練習方法を選ぶ	・自己や仲間の課題や練習方法について伝える	・課題解決のための練習の計画を立てる
体力や健康・安全	・安全上の留意点を他の学習場面に当てはめ、伝える	・体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る	・課題解決の過程を踏まえて新たな課題を発見する
		・運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ	・危険を回避するための活動の仕方を提案する
運動実践につながる態度	・最善を尽くす（伝統的な所作）などのよい取組を見付け、伝える	・よりよいマナーや行為（所作）について自己の活動を振り返る	・よりよいルールやマナー（所作）について提案する
	・分担した役割に応じた活動の仕方を見付ける	・分担した役割の成果などについて自己の活動を振り返る	・状況に応じて役割を提案する
	・提示された仕方に当てはめ、関わり方を見付ける	・合意形成するための関わり方を見付け、伝える	・合意を形成するための調整の仕方を見付ける
生涯スポーツの設計	・違いを踏まえて楽しむ方法を見付け、伝える	・違いに配慮して楽しむ活動の方法や修正の仕方を見付ける	・違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付ける
		・運動を継続して楽しむための関わり方を見付ける	・生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける

P39 各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用したり、応用したりすること

p40

体の動かし方や協力の仕方などの「どのように」行うのかといった具体的な知識だけではなく、その運動を支える原理や原則、意義などの「何のために」行うのかといった汎用的な知識を関連させて理解させた上で、学習場面に適応したり応用したりすること

P40 (3)学びに向かう力、人間性等

各段階で示した「学びに向かう力、人間性等」の主な表記

指導事項	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ 公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
ウ 協力・責任	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ 参画・共生	話合いに参加しようとする	話合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
オ 健康・安全	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

学びに向かう力、人間性等については、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通の事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。

健康・安全に関する事項については、意欲をもつことにとどまらず、実践することが求められていることを強調したものである。

学習指導要領実施状況調査(平成24-25) 国立教育政策研究所HP

H-1. ペーパーテスト調査及び実技調査結果の概要(体育(運動領域))

①ペーパーテスト調査

1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
ボール運動において作戦を選ぶこと	水泳(クロール)において課題に対応した練習を選ぶこと

(2) 体づくり運動の一層の充実

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
体力を高める運動により得られる効果及び力強い動きを高めるための適切な運動を選ぶこと	体ほぐしの運動の目的を理解すること

(3) 生涯にわたって運動に親しむ態度の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
- 友達の目当てを意識し、アドバイスをする態度に関すること - 審判としての役割に関する態度に関すること - 安全に気を付けてゲームをしようとする態度に関すること - 友達と助け合って練習や交流をしようとする態度に関すること - 安全に気を配って活動しようとする態度に関すること	※ 特記事項なし

2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
- ネット型のゲームにおいて有効な攻撃のコースを選ぶこと - ゴール型のゲームにおいてボールを保持してからの動きを選ぶこと	※ 特記事項なし

②実技調査

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)	課題があると考えられる (おおむね60%未満)
- ハードル走において「あらかじめ決めた足でハードルを走り越えること」及び「2回のインターバルを3～5歩のリズムで走ること」に関すること - ボール運動(ゴール型)の攻撃においてボールを操作すること - ボール運動(ネット型)に関すること	- ハードル上で上体を前傾させること - ボール運動(ゴール型)の守備における動きに関すること

H-1. ペーパーテスト及び実技調査結果等の主なポイント(保健体育(体育分野))

①ペーパーテスト調査

1. 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項等

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の生徒ができています	課題があると考えられる
- 武道において学習した安全上の留意点を他の場面に当てはめることなどの「体力や健康・安全に関する思考・判断」に関すること - ダンスにおいて発表の場で仲間のよい動きや表現などを指摘することなどの「運動実践につながる態度に関する思考・判断」に関すること	- 学習課題に応じて運動や練習方法を組み合わせることなどの「体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断」に関すること - 知識を活用する問題においてダンスにおけるグループでの作品作りの手順を考えること

(2) 発達段階を踏まえた「第1学年及び第2学年」のまとまりで示された指導内容の体系化・明確化

相当数の生徒ができています	課題があると考えられる
「積極的に話合いに参加しようとする態度」について理解すること 「体づくり運動(体力を高める運動)の体の柔らかさを高めるための行い方」について理解すること 「関連して高まる体力(球技)」について理解すること 「伝統的な考え方(武道)」について理解すること	- 新たに必修となった武道、ダンス(創作ダンス)の「名称や行い方」を理解したり活用したりすること 「体づくり運動(体ほぐしの運動)の行い方」について理解すること

(3) 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

- 体育の学習の有用性や必要性を認識している生徒、態度の学習に肯定的に回答している生徒、知識、思考・判断の学習ができていないと回答している生徒、授業外で運動している生徒のペーパーテストの正答率が高い傾向にあること - 実技調査ではおおむね相当数の生徒に技能の定着が見られる。一方、生徒質問紙調査では、「できたと思う」という回答の割合は相対的に低い傾向にあること 「体育の学習が好き」、「ふだんの生活で運動をする」に肯定的な回答をしている生徒の技能の実現状況は相対的に良好であること - 生徒質問紙調査における「する、みる、支える」という多様なスポーツの楽しみ方について、相当数の生徒が大切にしていると回答しているが、「支える」活動をしているとあるという回答の割合は低い傾向にあること - 体育理論については、既習(学習をしている)生徒の7割以上が「興味・関心をもち取り組めた」、「行い方や考え方が理解できたと思う」と回答している。一方、教師質問紙調査において「生徒が興味・関心をもちやすい」、「生徒が身に付けやすい」という回答の割合は低い傾向にあること	
--	--

2. 今回の改訂で新設・移行した事項等

相当数の生徒ができています	課題があると考えられる
体育理論の「運動やスポーツの心身の効果」について理解すること	- 体力を高める運動の「運動を組み合わせる運動の計画に取り組むこと」 - 球技(ゴール型)のボールを持たないときの守備の動きについて理解すること

②実技調査

1. 実技調査に関する事項

相当数の生徒ができています	課題があると考えられる
球技(ネット型)「ボールを持たないときの動き」における技能をはじめ、ほとんどの問題についての技能の定着に関すること	- 器械運動(マット運動)における技能の定着(接点技群)に関すること - 球技(ベースボール型)「基本的なバット操作」における技能の定着に関すること

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（体育（運動領域））

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 「知識及び技能」として、知識を技能と関連付けて示す。
- 「思考力、判断力、表現力等」として、表現力を新たに示す。
- 「学びに向かう力、人間性等」として、従前に引き続き内容を示すとともに、共生の視点を新たに示す。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 互いの動きや考えのよさを認め合うことのように運動やスポーツの価値である、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度の理解については、相当数の児童ができています。
- 体ほぐしの運動の目的の理解や、クロールにおける自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫することに関する思考力、判断力については課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・体ほぐしの運動の目的や必要性について、教師が理解し、授業において丁寧に言葉で児童に説明したり、活動を通して理解できるようにしたり、活動後に価値付けたりするなどして、その意味を児童が理解できるようにする。
 - ・クロールの呼吸の仕方に関する課題に応じた様々な練習方法について、教師が理解し、授業において適切に児童に提示することが求められる。

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/体育（運動領域））

「互いの動きや考えのよさを認め合うこと」の問題例（別紙1参照）

- 今回の学習指導要領改訂により、「共生」の視点が新たに示された。
- 「学びに向かう力、人間性等」に関連し、共生の理解を問う問題を出題。【通過率 90.6%】

※本調査は、「学びに向かう力、人間性等」に関する理解度を把握するものであることに留意が必要である。

「体ほぐしの運動の目的を理解すること」の問題例（別紙2参照）

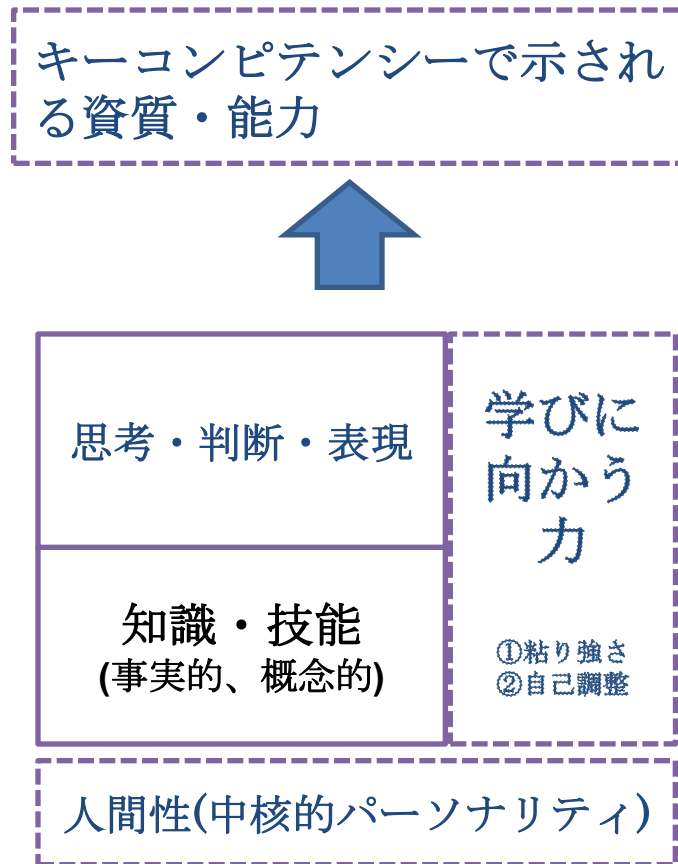
- 前回調査では、体ほぐしの運動の目的の理解に課題があると考えられた。
- 「知識及び運動」に関連し、体ほぐしの運動の目的を理解することを問う問題を出題。【通過率 37.3%】

「クロールの自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫すること」の問題例（別紙2参照）

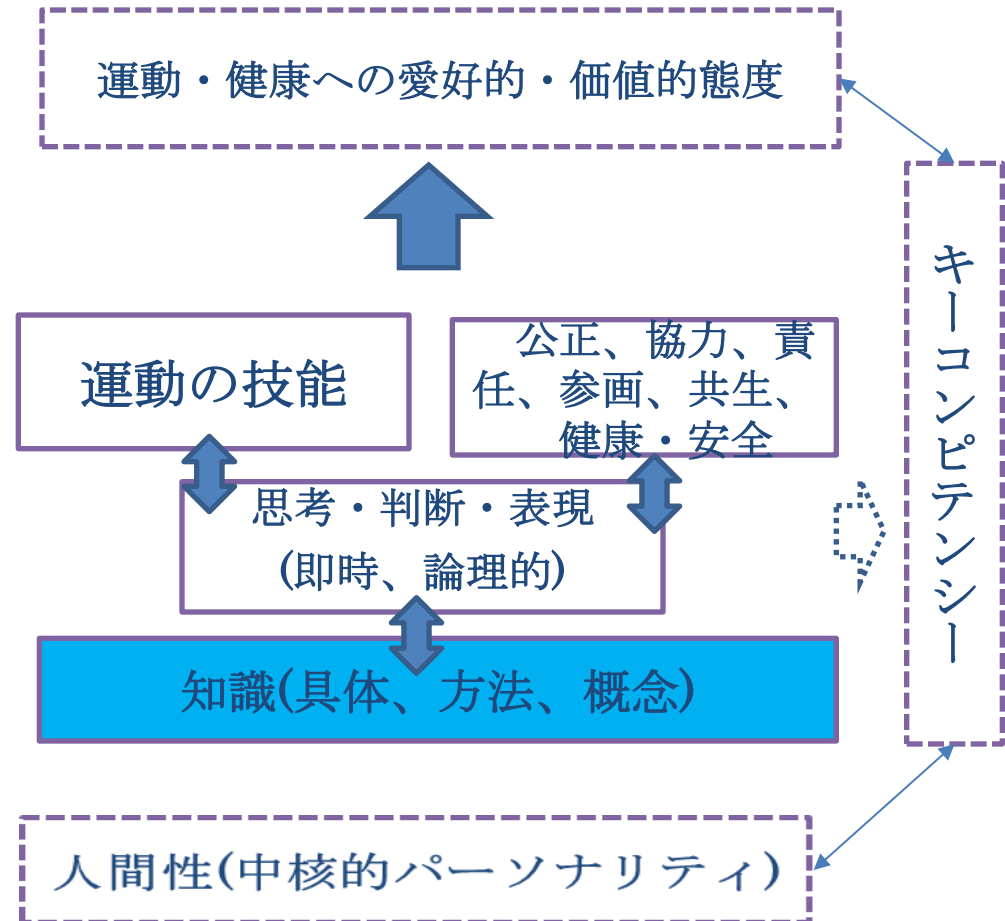
- 前回調査では、クロールの自己の能力に適した課題の解決の仕方の思考・判断に課題があると考えられた。
- 「思考力、判断力、表現力等」に関連し、課題の解決の仕方を工夫することの理解を問う問題を出題。【通過率 38.5%】

現行において、学びに向かう力・人間性等については成果が定着している。

教科全体の 資質・能力育成モデル



体育における 資質・能力育成モデル



体育学習の「わかる」と「できる」イメージ図

2015,SATO作図

Input(情報の入力)

Output(情報の出力)

知識

技能

コツや高め方

態度

公正、協力
、責任等

知識

特性、体力、
体育理論



3つの出力(表現)

運動の
技能

フェアプレイ、協
力、合意形成、
危機回避、

指摘する、説明
する、選択する

思考・判断

特性に応じて楽しさや喜びを味わう

生涯にわたる豊かなスポーツライフ

2025 教科全体の 資質・能力育成モデル

体育における 資質・能力育成モデル

個人と社会のウェルビーイングの実現

運動・健康への愛好的・価値的態度

知識・
技能

思考・判
断・表現

学びに
向かう
力・人
間性等

態度の知識
(守る)公正、責任、健康
・安全
(創る)協力、参画、共生

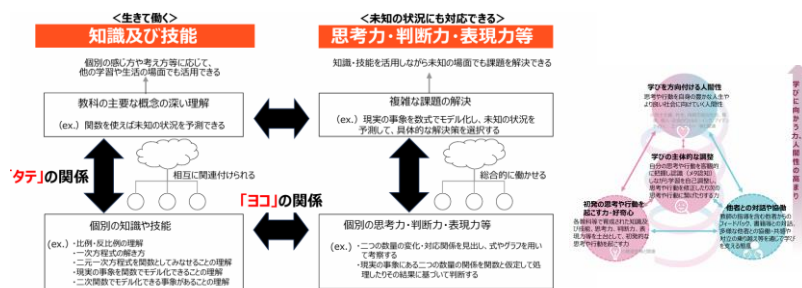
態度のスキル

思考・判断・表現
(即時 論理的)

運動の技能

技術的知識
(構造化)

する、みる、支える、知る
ための知識



※ (ex.) は例示のイメージ

*具体的指導事項として態度形成につながる知識を指導し、スキルとして育てることで、愛好的態度の醸成につなげる。運動の知識・技能、態度の知識・技能として整理する。

体育における内容及び学習評価対応イメージ案(佐藤)

個人と社会のウェルビーイングの実現

学びに向かう力・人間性等

運動・健康への愛好的・価値的態度

カリキュラムマネジメント
(成果の統合)

知識

技能

態度の知識
(守る)公正、責任、健康・安全
(創る)協力、参画、共生

単元で育成可能な
態度

思考・判断・表現
(即時、論理的)

技術的知識
(クローズ系、オープン系)
(構造化)

単元で育成可能な運動の技能

する、みる、支える、知る
ための知識

単元の積み重ねと内容の深化

非認知能力の汎用化

課題解決能力の汎用化

身体表現力の汎用化

多様で豊かなスポーツライフ

運動領域
単元レベル

理論

学年(中学校第1学年及び第2学年) 領域(球技) 態度の内容(公正) 解説の表記

フェアなプレイを守ろうとするとは、球技は、チームや個人で勝敗を競う特徴があるため、規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり、相手や仲間の健闘を認めたりして、フェアなプレイに取り組もうとすることを示している。そのため、ルールやマナーを守ることによって球技独自の楽しさや安全性、公平性が確保されること、また、相手や仲間のすばらしいプレイやフェアなプレイを認めることで、互いを尊重する気持ちが強くなることを理解し、取り組めるようにする。

概念知(なぜ)

- ルールやマナーを守る
安全性、公平性が確保される
- 健闘を称える、良いプレーを認める
互いを尊重する気持ちが強くなる

具体知(何を知る)

- ルールを知る
簡易化されたゲームのルールを知る
 - ・サーブは、センターラインより後ろから打つこと
 - ・スパイクは、山なりで打つこと
- 健闘を称える
 - ・勝敗に関わらず、試合後は気持ちよく挨拶をすること
- 良いプレーを認める
 - ・ハイタッチやナイスプレーと声をかける

教師の働きかけ(しようとする意欲)

場面・教材(方法知)

○ルールを守る

- ・簡易化されたルールを学習する機会を設ける
- ・ラフプレイが与える影響について話し合う
- ・フェアプレイ宣言を取り入れる
- ・不公平な結果が出るゲームを体験する
- ・自身のプレイを振り返り改善点を明確にする

○健闘を称える、良いプレーを認める

- ・敗者の際に健闘を称えられた際の感情を伝える
- ・相手チームからナイスプレイと声をかけられた時の感情を記述する
- ・今日のフェアプレイ賞を選出する
- ・モデルとなる所作をしている生徒を観察させる

発問(思考・判断・表現)

○全員が安全で公平性が確保されるルールやマナーをチームで挙げてみよう

○仲間がフェアだなと思うときはどんな時?
どのようなプレイが不快に感じるのかな?

○勝敗とは他に、フェアなプレイを称えるための良いアイデアはないだろうか。

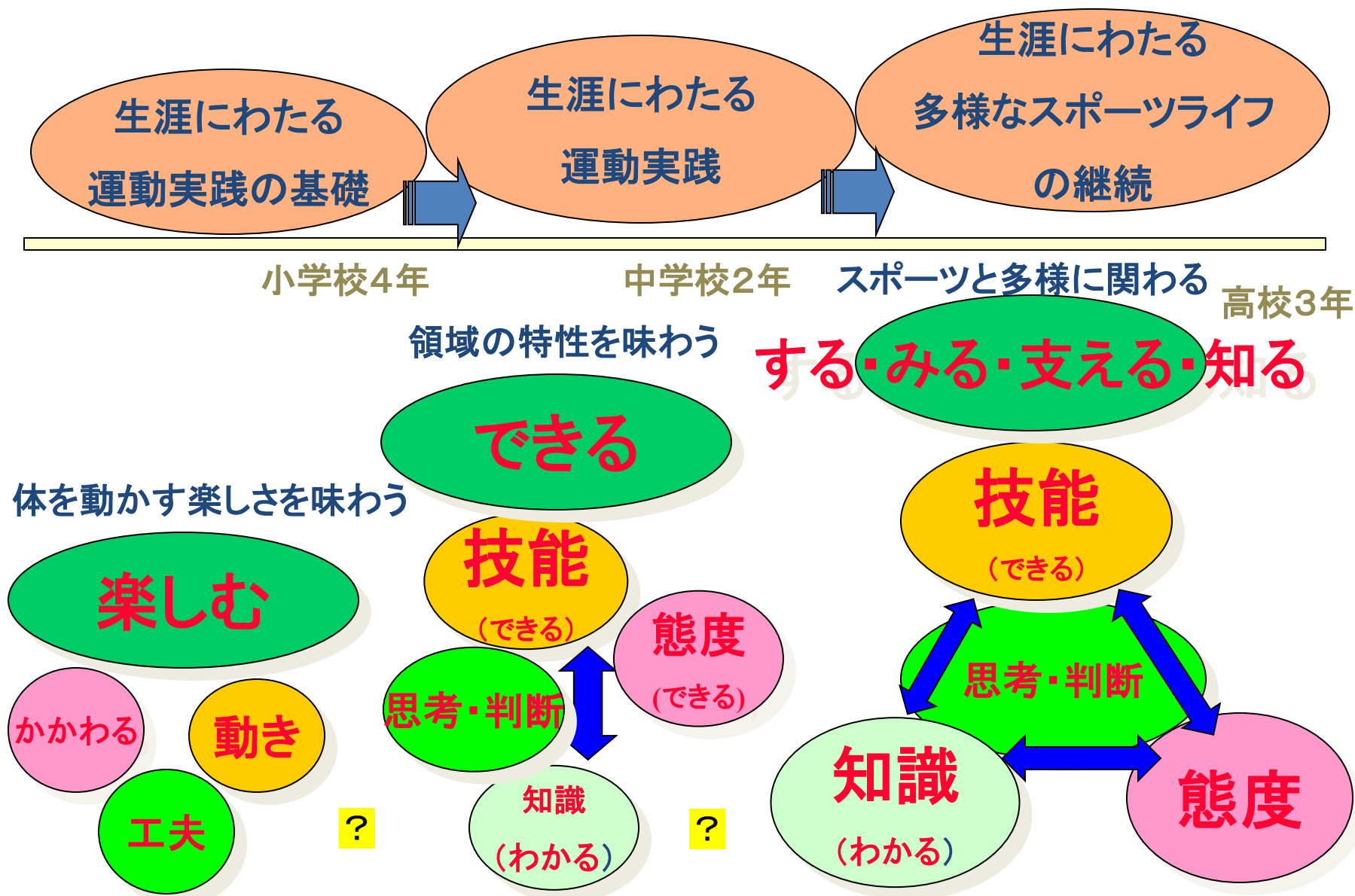
ゴール型(サッカー)												
学習目標		(知識・技能)	次の運動について、勝敗を競う解するとともに、基本的な技能ゴール型では、ボール操作と空									
		(思考力・判断力、表現力等)	攻防などの自己の課題を発見しができるようにする。									
		(学びに向かう力・人間性等)	球技に積極的に取り組むとともにに応じたプレイなどを認めよう									
		1	2	3	4	5						
学習の流れ		健康観察										
	10	オリエンテーション 知識① 主④健康・安全 フットサル5対5 経験の違いを超えるルールを選択	動きづくりの反復メニュー(リフティング、二人組のパス、ドリブル)、鳥かご						トーナメント			
	20		ボール操作① フリーのシュート	ボール操作② 味方へのパス	ボールをもたない動き③ ボールとゴールが見える場所に立つこと	思・判・表① チームで練習方法を選ぶ	思・判・表③ 協力の仕方を見つける練習					
	30		出来栄を伝え合う活動			思・判・表① 出来栄を伝える						
	40		主②話し合いへの参加 話し合いへの参加が促されるゲーム			主③ 違いに応じた課題を認める 人数、コート、ルールの工夫された課題発見のゲーム	主①マナー、称賛 クラスで合意したルールのゲーム					
	50		整理運動、学習の振り返り									
評価	知識	①	②シュート	②パス	②ポジション	③体力					総括的評価	
	技能				①シュート	②パス	③ポジション					
	思・判・表					①出来栄え		②練習方法	③協力の仕方			
	学び		④健康安全		②話し合い		③違いを認める	①マナー				
										学習カード 観察、課題テスト 学習カード 学習カード、観察		

思考・判断・表現(運動、体力・健康・安全、態度に関する思考) 態度(公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全を取れ入れた)

教材化の検討

思考・判断・表現(運動、体力・健康・安全、態度に関する思考)
態度(公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全を取れ入れた)
教材化の検討

育成の重点の変化モデルの検討(4.4.4に応じて)



*発達の段階に応じた育成モデル(外発→内発、単純→構造的、スパイラル、校種の教育文化)などの視点も必要。